

## 資治通鑑 第 166 卷

【梁紀二十二】 起施蒙大淵獻，盡柔兆困敦，凡二年。

■梁、●西魏、**北齊**北齊、**後梁**後梁、続国訳漢文大成 經子史部 第 9 卷 290p

### 敬皇帝紹泰元年（乙亥，555年）

（敬帝、諱は方智、字は慧相、小字は法眞、元帝の第九子）

#### 【江陵に後梁成立】

■春，正月，壬午（18-18+1=1日）朔，邵陵（吳の孫皓寶鼎元年に零陵の北部都慰を分けて邵陵郡を置く。湖南省湘江道寶慶県、現・邵陽市邵陽県）太守の**劉棻**は兵を將いて江陵を援け，三百里の灘に至り，部曲の**宋文徹**は之を殺し，其の衆を帥いて還りて邵陵に據る。

**後梁**【**後梁は西魏の正朔を奉じる**】梁王の**察**（統は督、昭明太子の第三子）は江陵に於いて皇帝に即位し，改元して大定とす。昭明太子を追尊して昭明皇帝と為し，廟號を高宗とし，妃の**蔡氏**を昭德皇后と為す。其の母の**龔氏**を尊びて皇太后と為し，妻の**王氏**を立てて皇后と為し，子の**巋**を皇太子と為す。賞刑制度は並びて王者と同じくす，唯だ疏を魏に上りて則ち臣と稱し，其の正朔を奉じる。其の下を官爵するに至りては，亦た梁氏之舊に依り，其の勳級（勳功を賞する等級）は則ち，（9-291p）兼用柱國（西魏の置く官職、勳級の首）等の名を兼用。咨議參軍の**蔡大寶**を以て侍中、尚書令と為し，選事を參掌せしむ。外兵參軍の太原の**王操**を五兵尚書と為す。**大寶**は嚴整にして智謀有り，雅より政事に達し，文辭は贍速にして，後梁主は心を推して之に任じ，以て謀主と為し，之を**諸葛孔明**に比す。**操**も亦た之に亞す。邵陵王の**綸**（大寶二年に死す）に太宰を追贈し，諡して壯武と曰う。河東王の**譽**（大寶元年に死す）を丞相とし，諡して武桓と曰う。**莫勇**を以て武州刺史（江陵南岸）と為し，**魏永壽**を巴州刺史（江陵南岸）と為す。

■**後梁**【**王琳は後梁に反撃**】湘州刺史の**王琳**は兵を將いて小桂（嶺の名、湖南省衡陽道桂陽県、現・郴州市桂陽県）より北下し，蒸城（漢の臨蒸県古城、衡州の界にあり、湖南省衡陽道衡陽県、現・衡陽市衡山県）に至り，江陵の已に陥るを聞き，世祖の為に哀を發し，三軍は縞素し，別將の**侯平**を遣わして舟師を帥いて後梁を攻めしむ。**琳**は兵を長沙に屯し，檄を州郡に傳え，進取之計を為す。長沙王の**韶**及び上游（揚子江上流）の諸將は皆な**琳**を推して盟主と為す。

**北齊**■●【**北齊も梁も出兵**】齊主は清河王の**岳**をして兵を將いて魏の安州（五代志に、安陸郡に西魏は安州を置く、湖北省江漢道安陸県、現・孝感市安陸市）を攻め使め，以て江陵を救わしむ。**岳**は義陽に至り，江陵は陥ち，因りて進軍して江に臨み，郢州刺史の**陸法和**及び儀同三司の**宋蒞**は州を舉げて之に降る。長史の江夏太守の**王銀**は從わず，之を殺す。甲午（30-18+1=13日），齊は**岳**を召して還らしめ，儀同三司の清都の**慕容儼**をして郢州に戍せ使む。**王僧辯**は江州刺史の**侯瑱**を遣わして郢州を攻めしめ，**任約**、**徐世譜**、宜豐侯の**循**は皆な兵を引いて之に會す。

**北齊**【**北齊は梁傀儡政權を送り込む**】辛丑（37-18+1=20日），齊は貞陽侯の**淵明**（寒山の敗戦にて北齊に没す）を立てて梁主と為し，其の上黨王の**渙**をして兵を將いて之を送ら使め，**徐陵**（太清二年に魏に使いし、魏は齊に禪讓する。時に梁にも侯景の乱ありて遂に北に留まる）、**湛海珍**（162卷三年にあり）等は皆な**淵明**に従いて歸るを聽す。

■【**晉安王は即位**】二月，癸丑（49-48+1=2日），晉安王は尋陽より至り，入りて朝堂に居り，梁王に即位す，時に年は十三。太尉の**王僧辯**を以て中書監、錄尚書、驃騎大將軍、都督中外諸軍事と為し，**陳霸先**に征西大將軍を加え，南豫州刺史の**侯瑱**を以て江州刺史と為し，湘州刺史の**蕭循**を太尉と為し，廣州刺史の**蕭勃**を司徒と為し，鎮東將軍の**張彪**を郢州刺史と為す。

**北齊**■ **〔北齊主の王僧辯懷柔は失敗〕** 齊主は先に殿中尚書の邢子才をして傳を馳せて建康に詣らせ、王僧辯に書を與えて、以為く、

「嗣主は冲藐（幼少）にして、未だ負荷に堪えず。彼の貞陽侯は、梁武の猶子（長沙王懿の弟、武帝の兄の子）にして、長沙之胤なり、年を以て望を以て、金陵を保つに堪える、故に置きて梁王と為し、彼の國に納れるべし。卿は宜しく舟楫を部分し、今主を迎接し、心を並せて力を一にして、善く良圖を建てるべし。」

乙卯（51-48+1=4日）、貞陽侯の淵明も亦た僧辯に書を與えて迎えを求める。僧辯は復書して曰く、

「嗣主の體は宸極より、文祖（統の又祖は×、書經堯典の、終を文祖に受く、による）に受ける。（9-292p）明公は倘し能く入朝すれば、同じく王室に奨めん、伊、呂之任は、僉曰く歸るを仰ぐと。意は主盟に在るは、敢えて命を聞かず。」

甲子（60-48+1=13日）、齊は陸法和を以て都督荊、雍等十州諸軍事、太尉、大都督、西南道大行台と為し、又た宋蒞を以て郢州刺史と為し、蒞の弟の籙を湘州刺史と為す。甲戌（10+60-48+1=23日）、上黨王の渙は譙郡（梁は合州を合肥に置き、南譙郡を襄安県の界に立つ。漢の巢県。安徽省安慶道巢県、現・合肥市巢湖市）に克つ。己卯（15+60-48+1=28日）、淵明は又た僧辯に書を與え、僧辯は従わず。

●魏は右僕射の申徽を以て襄州（魏は既に梁の雍州を得て襄州と改める。襄陽の名に因む）刺史と為す。

■後梁侯平は後梁の巴、武二州を攻め、故に劉棻の主帥の趙朗は宋文徽を殺し、邵陵を以て王琳に歸す。

### 【蕭淵明の即位と波紋】

**北齊**■ **〔北齊攻勢で王僧辯は動揺〕** 三月、貞陽侯の淵明は東關に至り、散騎常侍の裴之横は之を御ぐ。齊の軍司の尉瑾、儀同三司の蕭軌は南に蛟城（統は皖城、晉熙郡懷寧県は漢の皖城、安徽省安慶道潜山県の北、現・安慶市潜山市）を侵し、晉州刺史の蕭惠は州を以て之に降る。齊は晉熙を改めて江州と為し、尉瑾を以て刺史と為す。丙戌（22-17+1=6日）、齊は東關に克ち、裴之横を斬り、俘は數千人。王僧辯は大いに懼れ、出でて姑孰に屯し、淵明を納れんと謀る。

**北齊** 丙申（32-17+1=16日）、齊主は鄴に還り、世宗の二子を封じ、孝珩を廣寧王と為し、延宗を安德王と為す。

■孫瑒は江陵の陷るを聞き、廣州を棄てて還り、曲江侯の勃（去年、王琳を避けて思考に居る）は復た據りて之を有つ。

● **〔宇文泰は梁の奴婢解放令〕** 魏の太師の泰は王克、沈炯（去年長安に入る）等を遣わして江南に還らしむ。泰は庾季才を得、厚く之を遇し、太史を參掌せ令む。季才は私財を散じ、親舊之奴婢と為る者を購う。泰は問う、

「何ぞ能く是の如しや？」

對えて曰く、

「僕は聞く、國に克ち賢に禮するは、之を道と言う也（統は、古の道）。今郢都（江陵は古の郢城及び渚宮は皆この地にあり）は覆没し、其の君は信に罪有り矣、搢紳（礼装の際に笏を大帶に挟む、高官）は何の咎ありてか、皆な卑隸（奴僕）と為るや！鄙人は羈旅なれば、敢えて獻言せず、誠に切（統は竊）に之を哀れみ、故に私に之を購う耳。」

泰は乃ち悟りて、曰く、

「吾之過り也！君微かりせば、遂に天下之望を失わん！」

因りて令を出し、梁の俘の奴婢と為る者數千口を免ず。

**北齊**夏，四月，庚申（16+60-47+1=30日），齊主は晉陽に如く。

■五月，庚辰（16-16+1=1日），侯平等は莫勇、魏永壽を擒とす。江陵之陷る也，永嘉王の莊（世子方等の子、元帝の孫）は生まれて七年矣，尼の法慕は之を匿し，王琳は莊を迎え，之を建康に送る。

**北齊**庚寅（26-16+1=11日），齊主は鄴に還る。

■**北齊**〔齊の送り込んだ淵明が梁帝即位〕王僧辯は遣使して貞陽侯の淵明に啟を奉じ，君臣之禮を定め，又た別使を遣わして表を齊に奉じ，子の顯及び顯の母の劉氏、弟の子の世珍を以て淵明に質と為し，左民尚書（晉の武帝は太康中に置く官）の周弘正を遣わして歷陽に至りて奉迎せしめ，因りて晉安王を以て皇太子と為すを求める。淵明は之を許す。淵明は衛士三千を度さんと求め，僧辯は其の變を為すを慮り，（9-293p）止だ散卒（冗散の卒）千人を受ける。庚子（36-16+1=21日），龍舟・法駕を遣わして之を迎える。淵明は齊の上黨王の渙と江北に盟し，辛丑（37-16+1=22日），採石より江を濟る。是に於いて梁の輿南に渡り，齊の師は北に返る。僧辯は齊を疑い，楫を中流に擁し，敢えて西岸に就かず。齊の侍中の裴英起は淵明を衛送し，僧辯と江寧に會す。癸卯（39-16+1=24日），淵明は建康に入り，朱雀門を望み而して哭し，道に逆える者は哭を以て對す。丙午（42-16+1=27日），皇帝に即位し，改元して天成とし，晉安王を以て皇太子と為し，王僧辯を大司馬と為し，陳霸先を侍中と為す。

**北齊**〔齊の長城建設〕六月，庚戌（46-46+1=1日）朔，齊は民一百八十萬を發して長城を築き，幽州の夏口（居庸の下口、夏下に作るべし）より西に恆州に至る九百餘里，定州刺史の趙郡の王睿に命じて兵を將いて之を監せしむ。睿は，琛（高永寶、高歡の弟、永寶は琛の字）之子也。

**北齊**■〔慕容儼は包圍に堪えるも、郢州を梁に返還〕齊の慕容儼は始めて郢州に入り，而して侯瑱等は城下に奄至し，儼は方に隨いて備御し，瑱等は克つ能わず。間に乗じ出でて瑱等の軍を撃ち，大いに之を破る。城中の食は盡き，草木・根葉及び靴皮・帶角を煮て之を食し，士卒と甘を分け苦を共にし，堅守すること半歲，人は異志無し。貞陽侯の淵明は立ち，乃ち瑱等に圍みを解くを命じ，瑱は還りて豫章に鎮す。齊人は城の江外に在りて守り難きを以て，因りて割きて以て梁に還す。儼は歸り，齊主に望み，悲しみて自ら勝えず。齊主は前に呼び，其の手を執り，帽を脱いて發を看，歎息すること之久し。

■吳興太守の杜龕は，王僧辯之婿也。僧辯は吳興を以て震州（震澤あるを以ていう）と為し，龕を用いて刺史と為し，又た其の弟の侍中の僧愔を以て豫章太守と為す。

### 【齊主の柔然討伐と道教弾圧】

**北齊**壬子（48-46+1=3日），齊主は梁國が稱藩するを以て，詔して凡そ梁民は悉く遣りて南に還す。

**北齊**〔齊主は柔然討伐の親征〕丁卯（3+60-46+1=18日），齊主は晉陽に如く。壬申（8+60-46+1=23日），自ら將いて柔然を撃つ。秋，七月，己卯（15-15+1=1日），白道（綏遠特別区域綏遠道歸綏県、現・フフホト市玉泉区）に至り，輜重を留め，輕騎五千を帥いて柔然を追い，壬午（18-15+1=4日），之に懷朔鎮（現・包頭市固陽県懷朔鎮）に及ぶ。齊主は親ら矢石を犯し，頗る戦い，大いに之を破る。沃野（現・バヤンノール市磴口縣布隆淖東北巴拉亥附近河拐子古城）に至り，其の酋長，及び生口二萬餘，牛羊數十萬を獲る。壬辰（28-15+1=14日），晉陽に還る。

■八月，辛巳（17+60-45+1=33日），王琳は蒸城より長沙に還る。

**北齊**〔齊主は道士弾圧〕齊主は鄴に還り，佛、道二教の同じからずを以て，其の一を去らんと欲し，二家の學者を集めて前に論難せしめ，遂に道士に敕して皆な髪を剃りて沙門と為らしむ。従わざる者有り，四人を殺し，乃ち命を奉ず。是に於いて齊の境に皆な道士無し。

## 【陳霸先の挙兵と実権掌握】

■ 「淵明を巡り、王僧辯と陳霸先は破綻」 初め、王僧辯は陳霸先と共に侯景を滅ぼし（164 卷世祖承聖元年にあり）、情好は甚だ篤し、僧辯は子の頤の為に霸先の女を娶り、會々僧辯は母の喪有り、未だ昏（結婚）は成らず。僧辯は石頭城に居り、霸先は京口に在り、僧辯は心を推して之を待ち、頤の兄の顗は屢々諫め、聽かず。僧辯が貞陽侯の淵明を納れるに及び、霸先は遣使して苦<sup>ねんご</sup>ろに之を爭い、往きて返ること數四、僧辯は従わず。霸先は切（続は竊）に歎じ、所親に謂って曰く、（9-294p）

「武帝の子孫は甚だ多く、唯だ孝元は能く仇を復して雪恥す（侯景を滅ぼす事）、其の子に何の罪あらん、而るに忽ち之を廢す！吾は王公と並びに托孤之地に處る、而るに王公は一旦圖を改め、外は戎狄に依り、非次を援立す、其の志は何の為す所を欲する乎！」（胡三省曰く、僧辯は淵明を立てるは名正しからずして、言は順ならず、故に姦雄は因りて以て資と為すを得たり）

乃ち密に袍の數千領及び錦彩金銀を具え賞賜之具と為す。

■ 「陳霸先の陰謀」 會々齊師の大舉して壽春に至りて將に入寇すると告げる者有り、僧辯は記室の江旰を遣わして霸先に告げしめ、之が備えを為さしむ。霸先は是に因りて旰を京口に留め、兵を擧げて僧辯を襲う。九月、壬寅（38-14+1=25日）、部將の侯安都、周文育及び安陸の徐度、錢塘の杜稜を召して之を謀る。稜は以て難しと為し、霸先は其の謀の洩れるを懼れ、手巾を以て稜を絞め、地に悶絶し、因りて別室に閉じる。將士を部分し、分けて金帛を賜り、弟の子の著作郎の曇朗を以て京口に鎮し、留府の事を知らしめ、徐度、侯安都をして水軍を帥いて石頭に趣かしめ、霸先は馬歩を帥いて江乘の羅落より之に會す。是の夜、皆な發し、杜稜を召して與に同行す。其の謀を知る者は、唯だ安都等四將のみ、外人は皆な以為らく、江旰は徵兵して齊を御ぐと、之を怪まざる也。

■ 「王僧辯を石頭に執り絞殺」 甲辰（40-14+1=27日）、安都は舟艦を引いて將に石頭に趣かんとし、霸先は馬を控えて（胡三省曰く、霸先は馬を控えて躊躇し、以て安都の意を觀る。安都が死を決して前向するを見、乃ち進むと）未だ進まず、安都は大いに懼れ、霸先を迫<sup>のし</sup>りて曰く、

「今日賊を作すは、事勢は已に成れり、生死は須く決すべし、後に在りて何の望む所を欲するや！若し敗れば、俱に死せん、期に後れるとも頭を斫らるるを免るるを得ん邪？」

霸先は曰く、

「安都は我を噉<sup>いか</sup>る！」

乃ち進む。安都は石頭の城北に至り、舟を棄てて岸に登る。石頭の城北は岡阜に接し、甚だ危峻ならず。安都は甲を被り長刀を帶び、軍人は之を捧げ、女垣（城上の牆）の内に投じ、衆は隨い而して入り、進みて僧辯の臥室に及ぶ。霸先の兵も亦た南門より入る。僧辯は方に事を視、外に兵有りと白し、俄に而して兵は内より出でる。僧辯は遽に走り、子の頤に遇い、與に俱に閣を出、左右數十人を帥いて廳事の前に苦戦し、力は敵せず、走りて南門樓に登り、拜請して哀を求める。霸先は火を縦ちて之を焚かんと欲し、僧辯は頤と俱に下りて執<sup>とら</sup>われに就く。霸先は曰く、

「我は何の辜<sup>つみ</sup>有りて、公は齊師と討を賜らんと欲すや？」

且つ曰く、

「何の意ぞ全く備え無きや？」

僧辯は曰く、

「公に北門（京口）を委ね、何ぞ備え無しと謂うや？」

是の夜、**霸先**は**僧辯**の父子を縊殺す。既に而して竟に齊兵無し、亦た**霸先**之<sup>いつわり</sup>譎に非ざる也。前青州刺史の新安の**程靈洗**は所領を帥いて**僧辯**を救い、石頭の西門に力戦し、軍は敗れる。**霸先**は遣使して招諭し、之の久しく乃ち降る。**霸先**は之を義とし、以て蘭陵太守と為し、京口を助防せしむ。乙巳(41-14+1=28日)、**霸先**は檄を為りて中外に佈告し、**僧辯**の罪狀を列ね、且つ曰く、(9-295p)

「資斧の指す所は、唯だ**王僧辯**父子兄弟のみ、其餘の親黨は、一に問う所無し。」

■ **〔晉安王即位と北齊に称藩〕** 丙午(42-14+1=29日)、貞陽侯の**淵明**は位を遜り、出でて邸に就き、百僚は**晉安王**の表を上り、勸進す。冬、十月、己酉(45-44+1=2日)、**晉安王**は**皇帝**に即位し、大赦し、改元(紹泰)し、中外の文武に位一等を賜る。貞陽侯の**淵明**を以て司徒と為し、建安公に封じる。齊に告げて云わく、

「**僧辯**は陰に篡逆を圖り、故に之を誅す。」

仍って臣と齊に稱し、永く藩國と為らんと請う。齊は行台の**司馬恭**を遣わして梁人と歷陽に盟さしむ。

**北齊** 辛亥(47-44+1=4日)、**齊主**は晉陽に如く。

## 【陳霸先の呉興攻め、齊の介入】

■ **〔陳霸先の政治体制〕** 壬子(48-44+1=5日)、**陳霸先**に尚書令、都督中外諸軍事、車騎將軍、揚、南徐二州刺史を加える。癸丑(49-44+1=6日)、宜豐侯の**循**を以て太保と為し、建安公の**淵明**を太傅と為し、曲江侯の**勃**を太尉と為し、**王琳**を車騎將軍、開府儀同三司と為す。

■ 戊午(54-44+1=11日)、帝の生む所の**夏貴妃**を尊びて**皇太后**と為し、妃の**王氏**を立てて**皇后**と為す。

■ **〔陳霸先は呉興の杜龕を攻める〕** **杜龕**は**王僧辯**之勢いを恃み、素より**陳霸先**に禮せず。呉興に在りて、毎に法を以て其の宗族を縛し、**霸先**は深く之を怨む。將に**僧辯**を圖らんとするに及び、密に兄の子の**茜**(続は蒨)をして長城(晉の太康三年に烏程を分けて立てる県、呉興郡に属す。浙江省錢塘道長興県、現・湖州市長興県、**陳霸先**が世々宗族と居る地)に還り、柵を立てて以て**龕**に備えしむ。**僧辯**は死し、**龕**は呉興に據りて**霸先**を拒み、義興太守の**韋載**は郡を以て之に應じる。呉郡太守の**王僧智**は、**僧辯**之弟也、亦た城に據りて守る。**陳茜**は長城に至り、兵を収めること才に數百人、**杜龕**は其の將の**杜泰**を遣わして精兵五千を將いて奄至し、將士は相い視て色を失う。**茜**は言笑自若たり、部分すること益々明らかなり、衆心は乃ち定まる。**泰**は日夜苦攻すること數旬、克たず而して退く。**霸先**は**周文育**をして義興を攻めしめ、義興の屬縣の卒は皆な**霸先**の舊兵なり、善く弩を用い、**韋載**は収めて數十人を得、系ぐに長鎖を以てし、所親に命じて之を監せしめ、**文育**の軍を射しめ、約して曰く、

「十發(続は射)して兩つ中たらざる者は死せん。」

故に發する毎に輒ち一人を斃し、**文育**の軍は稍卻く。**載**は因りて城外に於いて水に據りて柵を立て、相持つこと數旬。**杜龕**は其の從弟の**北叟**を遣わして兵を將いて拒み戦い、**北叟**は敗れ、義興に歸る。**霸先**は**文育**の軍の不利を聞き、辛未(7+60-44+1=24日)、自ら表して東に討ち、高州刺史の**侯安都**、石州(五代志に、永平郡に梁は石州を置く。隋は後に改めて藤州と曰うと。潭津県に治す、廣西省蒼梧道藤県、現・広西壮族自治区梧州市藤県)刺史の**杜稜**を留めて台省に宿衛せしむ。甲戌(10+60-44+1=27日)、軍は義興に至り、丙子(12+60-44+1=29日)、其の水柵を抜く。

■ **〔北齊〔徐嗣徽は石頭を執り、建康を襲う〕〕** 譙(五代志に、江都郡清流県に梁は新昌郡及び譙州を置く、安徽省淮泗道滁県、現・滁州市南譙区)、秦(六合県に秦郡及び秦州を置く、江蘇省金陵道六合県、現・南京市六合区)二州刺史の**徐嗣徽**の從弟の**嗣先**は、**僧辯**之甥也。**僧辯**は死し、**嗣先**は亡げて**嗣徽**に就き、**嗣徽**は州を以て齊に入る。**陳霸先**の東に義

興を討つに及び、**嗣徽**は密に南豫州刺史の**任約**と結び、精兵五千を將いて虚に乗り建康を襲い、是の日、入りて石頭に據り、游騎は闕下に至る。**侯安都**は閉門して旗幟を藏し、之に示すに弱きを以てし、城中に令して曰く、

「陣に登りて賊を窺う者は斬らん！」

夕に及び、**嗣徽**等は兵を収めて石頭に還る。(9-296p) **安都**は夜戦備を為し、將に旦ならんとし、**嗣徽**等は又た至り、**安都**は甲士三百を帥いて開東、西の掖門(台城の正南の端門の両脇)を開きて出で戦い、大いに之を破り、**嗣徽**等は奔りて石頭に還り、敢えて復た台城に逼らず。

■**〔陳霸先は鎮撫と逆襲〕****陳霸先**は**韋載**の族弟の**翽**を遣わして書を繼ぎて**載**を諭らしめ、丁丑(13+60-44+1=30日)、**載**及び**杜北叟**は皆な降り、**霸先**は厚く之を撫し、**翽**を以て義興郡を監せしめ、**載**を引いて左右に置き、之と謀議す。**霸先**は甲を巻きて建康に還り、**周文育**をして**杜龕**を討ち、長城を救わしむ。將軍の**黃他**は**王僧智**を吳郡に攻め、克たず、**霸先**は寧遠將軍の**裴忌**をして之を助け使む。**忌**は所部の精兵を選びて輕行し倍道し、錢塘より直ちに吳郡に趣き(胡三省はこの道順はあり得ないとする)、夜、城下に至り、鼓噪して之に薄る。**僧智**は大軍至ると以為い、輕舟にして吳興に奔る。**忌**は入りて吳郡に據り、因りて**忌**を以て太守と為す。

■**〔北齊〕****〔陳霸先は齊の介入を撃退〕**十一月、己卯(15-14+1=2日)、齊は兵五千を遣わして江を度りて姑孰に據り、以て**徐嗣徽**、**任約**に應ぜしむ。**陳霸先**は合州刺史の**徐度**をして柵を冶城に立て使む。庚辰(16-14+1=3日)、齊は又た安州(管下定遠県に梁は安州を置く、安徽省淮泗道定遠県、現・滁州市定遠県)刺史の**翟子崇**、楚州(五代志に鍾離郡に梁は北徐州を置く、齊は改めて楚州という)刺史の**劉士榮**、淮州(江都郡山陽圈に淮陰郡有り、東魏は淮州を置く、江蘇省淮揚道淮安県、現・淮安市淮陰区)刺史の**柳達摩**を遣わして兵萬人を將いて胡墅(大江の北岸にありて石頭城に対す)に於いて米三萬石、馬千匹を度して石頭に入れしむ。**霸先**は計を**韋載**に問う。**載**は曰く、

「齊師が若し兵を分けて先ず三吳之路に據り、地を東境に略せば、則ち時事は去る矣。今急に淮南に於いて**侯景**の故壘に因りて築城し、以て東道の轉輸を通じ、兵を分けて彼之糧運を絶つ可し、進みて資する所無から使めば、則ち齊將之首は旬日にして致る可し。」

**霸先**は之に従う。癸未(19-14+1=6日)、**侯安都**をして夜胡墅を襲わしめ、齊船千餘艘を焼く。仁威將軍の**周鐵虎**は齊の運輸を斷ち、其の北徐州(五代志に琅邪郡に旧徐州を置く)刺史の**張領州**を擒とす。仍つて**韋載**を遣わし大航に於いて**侯景**の故壘を築かしめ、**杜稜**をして之を守らしめ。齊人は倉門(石頭の倉城門)、水南(秦淮河の南)に於いて二柵を立て、梁兵と相い拒む。壬辰(28-14+1=15日)、齊の大都督の**蕭軌**は兵を將いて江北に屯す。

## 【北齊主の虐殺窮まる】

**〔北齊〕****〔高歸彥の高岳への復讐〕**初め、齊の平秦王の**歸彥**(高歡の族弟なり、歸彥の父徽は高歡に於いて旧恩有り、故に高歡は其の孤を憐れみ、岳に命じて之を養わしむ)は幼孤にして、**高祖**(高歡)は清河の昭武王の**岳**をして之を養わしめ、**岳**は情禮甚だ薄く、**歸彥**の心は之を銜む。**顯祖**の即位に及び、**歸彥**は領軍大將軍と為り、大いに寵遇せられ、**岳**は其の己を徳とすると謂い、更に之を倚頼す。**岳**は屢々兵に將として功を立て、威名有り、而れども性は奢侈にして、酒色を好み、第を城南(鄴城の南)に起こし、廳事の後ろに巷を開く。**歸彥**は之を帝に譖して曰く、

「清河は宮禁に僭擬し、制して永巷を為り、但だ闕無き耳。」

帝は是に由り之を惡む。帝は倡婦の**薛氏**を後宮に納れ、**岳**は先に嘗て其の姊に因りて之を迎えて第に至る。

帝は夜薛氏の家に遊び、其の姉は父の為に司徒を乞う。帝は大いに怒り、其の姉を懸けて、之を鋸殺す。岳を譲めるに奸を以てし、岳は服さず、(9-297p) 帝は益々怒り、乙亥（己亥なら 35-14+1=2 2 日）、歸彦をして岳を鳩せ使む。岳は自ら無罪を訴え、歸彦は曰く、  
「之を飲めば則ち家は全くす。」

之を飲み而して卒し、葬贈すること禮の如し。

**北齊** **〔薛嬪を惨殺支解、一座驚く〕** 薛嬪は帝に寵有り、之久しく、帝は忽ち其の岳と通じるを思い、故無く斬首し、之を懷に藏し、東山に出でて宴飲す。勸酬始めて合い、忽ち其の首を探し出し、杵（たちい）上に投げ、其の屍を支解し、其の髀を弄んで琵琶と為す、一座は大いに驚く。帝は方に收取し、之に對して流涕して曰く、  
「佳人は再び得難し！」

屍を載せて以て出で、發を被り歩し哭し而して之に隨う。

■ **北齊** **〔北齊の本格介入〕** 甲辰（40-14+1=2 7 日）、徐嗣徽等は治城の柵を攻め、陳霸先は精甲を將いて西明門より出でて之を撃ち、嗣徽等は大敗し、柳達摩等を留めて城を守らしめ、自ら採石に往きて齊の援を迎える。

■ 郢州刺史の宜豐侯の循を以て太保と為し、廣州刺史の曲江侯の勃を司空と為し、並せて征して入侍せしむ。循は太保を受け而して辭し入らず。勃は方に兵を擧げんと謀り、遂に命を受けず。

■ ● **〔王琳は西魏を攻める〕** 鎮南將軍の王琳は魏を侵し、魏の大將軍の豆盧寧（豆盧の本姓は慕容氏、燕の北地王の精は魏にくだる。北人は義に帰するを謂って豆盧と為す、因りて賜りて以て氏と為す）は之を御ぐ。

■ **北齊** **〔陳霸先は徐嗣徽と齊援軍を追い落とす〕** 十二月、癸丑（49-43+1=7 日）、侯安都は秦郡を襲い、徐嗣徽の柵を破り、數百人を俘とする。其の家を収め、其の琵琶及び鷹を得、遣使して之を送りて曰く、  
「昨は弟の處に至りて此を得、今以て相い還す。」

嗣徽は大いに懼れる。丙辰（52-43+1=1 0 日）、陳霸先は治城に對して航（船を列ねた橋）を立て、悉く衆軍を渡し、其の水南の二柵を攻める。柳達摩等は淮を渡りて陳を置き、霸先は兵を督して疾戦し、火を縦ちて柵を焼き、齊兵は大敗し、舟を争いて相い擠とし、溺死者は千を以て數え、呼聲は天地を震わし、盡く其の船艦を収める。是の日、嗣徽は任約と齊兵の水歩萬餘人を引いて還りて石頭に據り、霸先は兵を遣わして江寧に詣り、險要に據らしむ。嗣徽等は水歩敢えて進まず。江寧の浦口に頓し、霸先は侯安都を遣わして水軍を將いて襲いて之を破り、嗣徽等は單舸にして脱走し、盡く其の軍資器械を収める。

■ **北齊** **〔陳霸先は窮して齊と会盟〕** 己未（55-43+1=1 3 日）、霸先は四面より石頭を攻め、城中に水無く、升水は直は絹一匹なり。庚申（56-43+1=1 4 日）、達摩は遣使して霸先に和を請い、且つ質子を求める。時に建康は虛弱にして、糧運は繼がず、朝臣は皆な齊と和せんと欲し、霸先の從子の曇朗（京口に屯す）を以て質と為すを請う。霸先は曰く、

「今在位の諸賢は肩を齊に息めん（左傳に、鄭の成公は疾む、子の駟は肩を晉に息めんと請う、とあり。負擔を以て喩える）と欲し、若し衆議に違えば、孤は曇朗を愛し、國家を恤えずと謂い、今決して曇朗を遣わし、之を寇庭に棄てん。齊人は信無し、我は微弱と謂い、必ず當に盟に背かん。齊寇若し來たれば、諸君は須く孤の為に力門すべき也！」（霸先は齊人が功無きを以て必ず再来するを知り、衆に示して死を致すを責める）

乃ち曇朗及び永嘉王の莊、(9-298p) 丹楊尹の王冲之子の鉞を以て質と為し、齊人と城外に盟し、將士は其の南北（移動）するを <sup>ほしいまま</sup> 咨とす。辛酉（57-43+1=1 5 日）、霸先は兵を石頭の南門に陳し、齊人が北に歸るを送り、徐嗣徽、任約は皆な齊に奔る。齊の馬仗船米を収め、勝げて計る可からず。齊主は柳達摩を誅

す。壬戌（58-43+1=16日）、齊の和州（齊梁は盟約により和州を歴陽に置く）長史の**烏丸遠**（東胡の烏丸を姓とす）は南州より奔りて歴陽に還る。

■江寧令の**陳嗣**、黃門侍郎の**曹朗**は姑孰に據りて反し、**霸先**は**侯安都**等に命じて討ちて之を平らがしむ。

**霸先**は**陳曇朗**の亡竄するを恐れ、自ら歩騎を帥いて京口に至りて之を迎える。

■交州刺史の**劉元偃**は其の屬數千人を帥いて**王琳**に歸す。

●魏は侍中の**李遠**を以て尚書左僕射と為す。

●魏の益州刺史の**宇文貴**は**譙淹**の從子の**子嗣**をして**淹**を誘説せ使め、以て大將軍と為し、**淹**は従わず、**子嗣**を斬る。**貴**は怒り、之を攻め、**淹**は東遂寧（晉は徳陽県界の東南に遂寧郡を置く、五代志に、遂寧郡方義県は梁は小溪と曰い、東遂寧を置くと。四川省嘉陵道遂寧県の東南、現・徳陽市旌陽区）より徙りて**墊江**（漢には巴郡に属し、梁には楚州の治所、四川省東川道合川縣、現・重慶市墊江縣）に屯す。

■【晉安太守を陳寶應に伝える】初め、晉安（呉は東安県を立て、晉の武帝は晉安と会盟。太康三年に建安を分けて晉安郡を立てる。廈門道晉江縣、現・泉州市晉江市）の民の**陳羽**は、世々閩中の豪姓<sup>な</sup>為り、其の子の**寶應**は權詐多く、郡中は畏服す。**侯景**之亂に、晉安太守の**賓化侯**の**雲**は郡を以て**羽**に譲り、**羽**は老い、但だ郡事を治め、**寶應**をして兵を典ら令む。時に東境は荒饉し、而るに晉安は獨り豐衍なり。**寶應**は數々海道より出で、臨安（呉は餘杭を分けて臨水縣と為す、晉の武帝は太康元年に臨安とす）、永嘉、會稽を寇抄し、或は米粟を載せて之と貿易し、是に由りて能く富強を致す。**侯景**は平らぎ、**世祖**は因りて**羽**を以て晉安太守と為す。**陳霸先**の輔政するに及び、**羽**は郡（<sup>統は位</sup>）を**寶應**に傳えんと求め、**霸先**は之を許す。

## 【突厥帝国成立】

●【魏の宗室の降爵】是の歲、魏の**宇文泰**は淮安王の**育**を諷して上表し、古制の如く爵を降して公と為すを請い、是に於いて宗室の諸王は皆な降して公と為す。

●【突厥は柔然を滅ぼし、西魏は威服される】突厥の**木桿可汗**は柔然主（<sup>統は主無し</sup>）の**鄧叔子**を撃ち、之を滅ぼし、**叔子**は其の餘燼を収めて魏に奔る。**木桿**は西に厭哒（エフタル）を破り、東に契丹を走らせ、北に契骨（古の堅昆國、居勿、結骨。伊吾の西、焉耆の北、白山の傍に在り、匈奴の西鄙。テュルク系遊牧民族。キルギズ（Qırqız）の転写という）を並せ、塞外の諸國を威服す。其の地は東は遼海より、西は西海に至り、長は萬里、南は沙漠より以北の五六千里は皆な焉に屬す。**木桿**は其の強きを恃み、盡く**鄧叔子**等を誅せんことを魏に請い、使者は道に相い繼ぐ。太師の**泰**は**叔子**以下三千餘人を収めて其の使者に付け、盡く之を青門（長安城の東出南頭の第一門は霸城門といい、青かった）外に殺す。

●初め、魏の太師の**泰**は漢、魏の官の繁なるを以て、**蘇綽**及び尚書令の**盧辯**に命じて《周禮》に依りて更めて六官を定めしむ。（9-299p）

## 敬皇帝太平元年（丙子、556年）

●【西魏の六官制】春、正月、丁丑（13-13+1=1日）朔（<sup>統により補充</sup>）、魏は初めて六官を建て、**宇文泰**を以て太師、大冢宰と為し、柱國の**李弼**を太傅、大司徒と為し、**趙貴**を太保、大宗伯（宗伯以上は三公を以て六卿の職を兼ねる。太師・太傅・太保各々一人を置き、是を三孤と曰う）と為し、**獨孤信**を大司馬と為し、**於謹**を大司寇と為し、**侯莫陳崇**を大司空と為す。自餘の百官は、皆な《周禮》に仿う。

### 【陳霸先の梁旧勢力・北齊討伐戦】

■**北齊** **〔陳霸先の徐嗣徽説得失敗〕** 戊寅（14-13+1=2日）、大赦し、其の任約、徐嗣徽と同じく謀る者は、一に問う所無し。癸未（19-13+1=7日）、陳霸先は從事中郎の江旰をして徐嗣徽に説か使め南に歸らしめ、嗣徽は旰を執りて齊に送る。

■**北齊** **〔呉興の杜龕は駆逐される〕** 陳茜、周文育は軍を合わせて杜龕を呉興に攻める。龕は勇に而して無謀なり、酒を嗜み常に酔い、其の將の杜泰は陰に茜等と通じる。龕は茜等と戦い、敗れ、泰は因りて龕を説いて降ら使めんとし、龕は之を然りとす。其の妻の王氏（王僧辯の娘）は曰く、

「霸先の仇隙は此くの如し、何ぞ和を求める可けんや！」

因りて私財を出して賞募し、復た茜等を撃ち、大いに之を破る。既に而して杜泰は茜に降り、龕は尚ほ酔いて未だ覺めず、茜は人を遣わして負いて項王寺（項羽が呉下に起ち、故に後人の為に寺を呉興に立てる）の前に出でしめ之を斬る。王僧智は其の弟の豫章太守の僧悋と俱に齊に奔る。

■ **〔張彪素の討伐〕** 東揚州刺史の張彪は素より王僧辯の厚き所と為り、霸先に附かず。二月、庚戌（46-42+1=5日）、陳茜、周文育は輕兵にて會稽を襲い、彪の兵は敗れ、走りて若邪山（簡文帝大寶二年に張彪は兵を起こす所、會稽道紹興県、現・紹興市柯橋区）中に入り、茜は其の將の呉興の章昭遠を遣わして追いて之を斬らしむ。東陽太守の留異は茜に糧食を饋り、霸先は異を以て縉州（縉雲山に因りて縉州を置く、浙江省甌海道縉雲県、現・麗水市縉雲県）刺史と為す。

■ **〔江州の侯瑱を攻撃〕** 江州刺史の侯瑱は本は王僧辯に事え、亦た兵を擁して豫章及び江州に據りて、霸先に附かず。霸先は周文育を以て南豫州刺史と為し、兵を將いて湓城を撃た使め、庚申（56-42+1=15日）、又た侯安都、周鐵虎を遣わして舟師を將いて柵を梁山に立て、以て江州に備えしむ。

■**北齊** **〔齊側の徐嗣徽、任約は採石を襲う〕** 癸亥（59-42+1=18日）、徐嗣徽、任約は採石を襲い、戍主の明州（五代志に、日南郡交谷県に梁は明州を置くと）刺史の張懷鈞（採石に戍す）を執り齊に送る。

**後梁** 後梁主は侯平を公安に撃ち、平は長沙王の韶と兵を引いて長沙に還る。王琳は平を遣わして巴州に鎮せしむ。

■三月、壬午（18-12+1=7日）、詔して古今の錢を雜ぜて用いしむ。

### 【齊軍の建康來襲を撃破】

■**北齊** **〔齊は大挙して梁山に入寇〕** 戊戌（34-12+1=23日）、齊は儀同三司の蕭軌、庫狄伏連、堯難宗、東方老等を遣わして任約、徐嗣徽と兵十萬を合わせて入寇せしめ、柵口（柵江口、安徽省安慶道和県の西南150里、現・馬鞍山市和県）に出で、梁山（洲の名、安慶道和県、現・馬鞍山市和県）に向かう。陳霸先の帳内蕩主（統は盪主、勇士を主り敵人に突盪す）の黃叢は逆え撃ちて、之を破り、齊師は退きて蕪湖（蕪湖道蕪湖県、現・蕪湖市湾沚区）を保つ。霸先は定州刺史の沈泰等を遣わして侯安都に就き、共に梁山に據り以て之を御がしむ。周文育は湓城を攻め、未だ克たず、之を召して還らしむ。夏、四月、丁巳（53-41+1=13日）、霸先は梁山に如き諸軍を巡撫す。

**北齊** 乙丑（1+60-41+1=21日）、齊の儀同三司の婁睿は魯陽蠻を討ち、之を破る。（9-300p）

■**北齊** 侯安都は輕兵にて齊の行台の司馬恭を歷陽（安慶道和県、現・馬鞍山市和県）に襲い、大いに之を破り、俘獲は萬を計る。

● **〔宇文泰の後継指名〕** 魏の太師の泰は孝武の妹の馮翊公主に尚し、略陽公の覺を生む。姚夫人は寧都公

の毓を生む。毓は諸子の最長なり、大司馬の獨孤信の女を娶る。泰は將に嗣を立てんとし、公卿に謂って曰く、

「孤は子を立てて以て嫡とせんと欲し、恐らくは大司馬は疑い有らん、如何や？」

衆は默然とし、未だ言う者有らず。尚書左僕射の李遠は曰く、

「夫れ子を立てるに嫡を以てし、長を以てせず（春秋公羊傳の言）、略陽公は世子<sup>な</sup>為り、公は何の疑う所あらんや！若し信を以て嫌と為せば、請う先ず之を斬らん。」

遂に拔刀し而して起つ。泰も亦た起ち、曰く、

「何ぞ是に至らん！」

信も又た自ら陳解し、遠は乃ち止む。是に於いて群公は並びて遠の議に従う。遠は外に出、信に拜謝して曰く、

「大事に臨みて爾らざるを得ず！」

信も亦た遠に謝して曰く、

「今日公に頼りて此の大議を決す。」

遂に覺を立てて世子と為す。

●太師の泰は北巡す。

■**北齊** **〔齊は建康近辺に迫る〕** 五月、齊人は建安公の淵明を召し、詐りて師を退くを許し、陳霸先は舟を具して之を送る。癸未（19-11+1=9日）、淵明は疽背に發して卒す。甲申（20-11+1=10日）、齊兵は蕪湖を發し、庚寅（26-11+1=16日）、丹楊縣（安徽省蕪湖道當塗県、現・馬鞍山市当塗県）に入り、丙申（32-11+1=22日）、秣陵の故治（建康より60里）に至る。陳霸先は周文育を遣わして方山（江蘇省金陵道六合県の東、現・南京市六合区）に屯し、徐度をして馬牧に頓し、杜稜をして大航の南に頓せしめ以て之を御ぐ。

**北齊** 齊の漢陽の敬懷王の洽は卒す。

■**北齊** **〔齊軍は方山まで進出〕** 辛丑（37-11+1=27日）、齊人は淮を跨りて、橋柵を立て兵を渡し、夜方山に至る。徐嗣徽等は艦を青墩に列べ、七磯に至り、以て周文育の歸路を斷つ。文育は鼓噪し而して發し、嗣徽等は制する能わず。旦に至り、反りて嗣徽を攻め。嗣徽の驍將の鮑磻<sup>しんがり</sup>は獨り小艦を以て軍に殿し、文育は單舴艋（小舟）に乗り與に戦い、跳ねて艦中に入り、磻を斬り、仍って其の艦を牽き而して還る。嗣徽の衆は大いに駭き、因りて船を蕪湖に留め、丹楊より歩いて上る。陳霸先は侯安都、徐度を追いて皆な（建康に）還らしむ。

■**北齊** **〔周文育の決断で齊軍を撃退〕** 癸卯（39-11+1=29日）、齊兵は方山より進みて倪塘（江蘇省金陵道江寧県、現・南京市江寧区）に及び、游騎は台に至り、建康は震駭す。帝は禁兵を總べて出でて長樂寺に頓し、内外は纂嚴す。霸先は嗣徽等を白城（湖孰の界）に拒み、適々周文育と會す。將に戦わんとし、風は急にして、霸先は曰く、

「兵は風に逆わず。」

文育は曰く、

「事は急なり矣、何の古の法を用いるや！」

槊を抜き馬に上り先ず進み、衆軍は之に従い、風も亦た尋いで轉じ、殺傷すること數百人。侯安都は嗣徽等と耕壇（天子が自ら耕す田の壇）の南に戦い、安都は十二騎を帥いて其の陳を突き、之を破り、齊の儀同三司の乞伏無勞を生きて擒とす。霸先は潜に精卒三千を撤して沈泰に配して江を渡り、齊の行台の趙彥深を瓜步（揚子江の北岸、南京市六合区瓜埠鎮）に襲い、艦百餘艘、粟萬斛を獲る。

■**北齊**〔玄武湖西北で齊軍と対峙〕六月，甲辰（40-40+1=1日），齊兵は潜に鐘山に至り，（9-301p）侯安都は齊將の**王敬寶**と龍尾（鐘山の龍尾、山趾より道を築き、陂陀として以て山に登るを龍尾と曰う）に戦い，軍主の**張纂**は戦死す。丁未（43-40+1=4日），齊師は幕府山（建康北方の山、現・南京市江寧区、晉の琅邪王が初めて江を渡る時に、丞相の王導は幕府をその上に建てるにより命名）に至り，**霸先**は別將の**錢明**を遣わして水軍を將いて江乘（金陵道句容県の北、現・鎮江市句容市）に出で，齊人の糧運を邀撃し，盡く其の船米を獲る。齊軍は食乏しく，馬・驢を殺して之を食す。庚戌（46-40+1=7日），齊軍は鐘山を逾え，**霸先**は衆軍と樂游苑東及び覆舟山（建康の東、現・南京市江寧区）北に分頓し，其の衝要を斷つ。壬子（48-40+1=9日），齊軍は玄武湖（建康の台城の北）の西北に至り，將に北郊壇（晉の武帝は北郊壇を覆舟山の南に立つ）に據らんとし，衆軍は覆舟より東に移りて壇の北に頓し，齊人と相い對す。

■**北齊**〔大雨下満腹して齊軍を撃退〕會々連日大雨ふり，平地の水は丈餘にして，齊軍は晝夜泥中に坐立し，足指は皆な爛れ，鬲（<sup>ただ</sup>鼎の款足あるもの）を懸けて以て爨（<sup>かし</sup>）ぎ，而して台中及び潮溝（後の孫權の開く、潮を引いて秦淮河に至る）の北路は燥き，梁軍は毎に番易するを得る。時に四方は壅隔し，糧運は至らず，建康の戸口は流散，徵求するに所無し。甲寅（50-40+1=11日），少しく霽れ，**霸先**は將に戦わんとし，市人に調（調達）して麥飯を得，軍士に分給し，士は皆な饑え疲れる。會々**陳茜**は米三千斛、鴨千頭を饋り，**霸先**は命じて米を炊き鴨を煮，人人は荷葉を以て飯を裹（<sup>つつ</sup>）み，緄（<sup>ま</sup>（続は女扁に昆））ぜるに鴨肉數臠を以てす。乙卯（51-40+1=12日），未明，**摩食**（<sup>じよう</sup>腹一杯食べる）し，曉ける比おい，**霸先**は麾下を帥いて莫府山に出る。侯安都は其の部將の**蕭摩訶**に謂って曰く、

「卿の驍勇は有名なり，千聞は一見に如かず。」

**摩訶**は對えて曰く、

「今日公をして之を見令めん。」

戦うに及び，**安都**は馬より墜ち，齊人は之を圍み，**摩訶**は單騎にして大呼し，直ちに齊軍を衝き，齊軍は披靡（勢いを恐れ従い服す）し，**安都**は乃ち免る。**霸先**は**吳明徹**、**沈泰**等の衆軍と首尾齊しく舉り，兵を縦ちて大いに戦い，**安都**は白下より兵を引いて横より其の後にし，齊師は大いに潰え，斬獲は數千人，相い蹂躪し而して死する者は勝げて計る可からず。**徐嗣徽**及び其の弟の**嗣宗**を生きて擒とし，之を斬り以て徇え，奔るを追い臨沂（晉の成帝咸康元年に桓温は南琅邪の太守を領し、江乘に鎮し分けて臨沂県を立てる。江蘇省金陵道江寧県東北30里、現・南京市江寧区）に至る。其の江乘、攝山（建康の城北45里）、鐘山等の諸軍は相い次いで克捷し，**蕭軌**、**東方老**、**王敬寶**等將帥凡そ四十六人を虜とす。其の軍士は竄（<sup>かく</sup>）れて江に至るを得る者は，荻筏を縛して以て濟り，中江に而して溺れ，流屍は京口に至り，水を翳り岸に彌る。唯だ**任約**、**王僧愷**は免かるを得る。丁巳（53-40+1=14日），衆軍は南州に出，齊の舟艦を燒く。

■〔論功行賞困難〕戊午（54-40+1=15日），大赦す。己未（55-40+1=16日），嚴を解く。軍士は俘を賞するを以て酒に質（<sup>か</sup>）え（太平御覽兵部には、典略を引いて、齊人を以て酒に質し、とある），一人裁（<sup>わす</sup>）かに一酔を得る。庚申（56-40+1=17日），齊將の**蕭軌**等を斬り，齊人は之を聞き，亦た**陳曇朗**を殺す。**霸先**は啟して南徐州を解き以て侯安都に授ける。

■●**北齊**〔魏齊梁に翻弄される王琳〕侯平は頻りに後梁軍を破り，**王琳**の兵威の接せざるを以て，更に指麾を受けず。**琳**は將を遣わして之を討つ。**平**は巴州の助防の**呂旬**を殺し，其の衆を収め，江州に奔り，**侯瑱**は之と結びて兄弟と為る。**琳**の軍勢は益々衰え，乙丑（1+60-40+1=22日），遣使して奉表して齊に詣り，（9-302p）並せて馴象（調教した象）を獻ず。江陵之陷る也，**琳**の妻の**蔡氏**、世子の**毅**は皆な魏に没す，

琳は又た款を魏に獻じ以て妻子を求める。亦た梁に臣と稱す。

### 【齊の高洋の功罪】

**北齊**齊は丁匠三十餘萬を發して、三台（鄴の曹操の築く所）の宮殿を修廣す。

**北齊**〔高洋は名君暴君半々〕齊の**顯祖**（高洋 550-555）之初めて立つ也、心を政術に留め、務めて簡靖を存す、任使に坦に（任使する際には坦懷にして之を待つ）、人は盡力するを得る。又た能く法を以て下を馭し、或は違犯する有れば、勳威を容れず、内外は肅然とせざるは莫し。軍國の機策に至りては、獨り懷抱に決す。行陣に臨む毎に、親ら矢石に当たり、向かう所功有り。數年之後、漸く功業を以て自ら矜り、遂に酒を嗜み淫佚にして、<sup>ほしいまま</sup>肆に狂暴を行う。或は身自ら歌舞し、日を盡して（終日）宵を通じる。或は散發胡服し、雜衣錦彩す。或は形體を袒露し、粉黛を塗傅す。或は牛、驢、橐駝、白象に乗り、鞍勒を施さず。或は**崔季舒**、**劉桃枝**をして之を負い而して行か令め、胡鼓を擔<sup>にな</sup>いて之を拍<sup>う</sup>つ。勳威之第に、朝夕臨幸し、市裡に遊行し、街坐巷宿す。或は盛夏の日中に身を暴し、或は隆冬に衣を去りて馳走す。従者は堪えず、**帝**は之に居りて自若たり。三台の構木は高さ二十七丈、兩棟の相い距てること二百餘尺、工匠は危ぶみ怯え、皆な繩を繫いで自ら防ぐ、**帝**は（屋根の）脊に登りて疾走し、殊に怖畏する無し。時に復た雅舞し、折旋は節に中たり、傍人の見る者は寒心せざるは莫し。嘗て道上に於いて婦人に問いて曰く、

「天子は何如？」

曰く、

「顛顛癡癡たり、何ぞ天子を成さん！」

**帝**は之を殺す。

**北齊**〔高洋と婁太后〕婁太后は**帝**の酒狂するを以て、杖を舉げて之を撃ちて曰く、

「此の如き父は此くの如き兒を生む！」

**帝**は曰く、

「即ち當に此の老母を嫁して胡に與えるべし。」

太后は大いに怒り、遂に言笑せず。**帝**は太后を笑わさんと欲し、自ら匍匐<sup>ほふく</sup>し身を以て床を舉げ、太后を地に墜とし、頗る傷つく所有り。既に醒め、大いに慚じ恨み、積柴を積み火を熾<sup>おこ</sup>さ使め、其の中に入らんと欲す。太后は驚き懼れ、親ら自ら持ち挽き、強いて之が為に笑いて、曰く、

「向<sup>さき</sup>には汝は酔える耳！」

**帝**は乃ち地に席を設け、平秦王の**歸彥**に命じて杖を執らしめ、口ずから自ら責め數え、背を脱して罰に就く、**歸彥**に謂って曰く、

「杖うちて出血せざれば、當に汝を斬るべし。」

太后は前みて自ら之を抱き、**帝**は流涕して苦<sup>ねんご</sup>ろに請い、乃ち脚を笞つこと五十、然る後に衣冠して拜謝し、悲み自ら勝えず。是に因りて酒を戒めること、一句、又た復た初めの如し。

**北齊**〔高洋の横暴は皇后の母親、丞相に及ぶ〕**帝**は李後の家に幸し、鳴鏑を以て後の母の**崔氏**を射、罵りて曰く、

「吾は酔う時は尚ほ太后も識らず、老婢は何事ぞ！」

馬鞭をもって亂撃すること一百有餘。**楊愔**を以て宰相と為すと雖も、廁籌（数とり）を進め使め、馬鞭を以て其の背を鞭ち、流血は袍に洩し。嘗て小刀を以て其の腹を癢<sup>り</sup>（割腹）せんと欲し、**崔季舒**は俳言に托して曰く、

「老小公子、惡戯。」

因りて刀を擧<sup>ひ</sup>き之を去る。又た**愔**を棺中に置き、載せるに輜車(喪車)を以てし。又た嘗て槩を持ち馬を走らせ、(9-303p)以て左丞相の**斛律金**之胸に擬するの者三たび、金立ちて動かず、乃ち帛千段を賜う。

**北齊** **〔高洋の淫乱弑虐〕** 高氏の婦女は親疏を問わず、多く之と亂し、或は以て左右に賜い、又た多方之を苦辱す。彭城王の**浹**の太妃の**爾朱氏**は、魏の**敬宗**之后也、帝は之を蒸さんと欲し、從わず。手刃して之を殺す。故に魏の樂安王の**元昂**は、**李后**之姉婿也、其の妻は色有り、帝は數々之に幸し、納れて昭儀と為さんと欲す。**昂**を召し、伏せ令め、鳴鏑を以て之を射ること百餘下、凝血は垂れて將に一石にならんとし、竟に死に至る。后は啼きて食わず、位を姉に譲らんと乞い、**太后**も又た以て言を為し、帝は乃ち止む。

**北齊** **〔供御囚は高洋の殺人用〕** 又た嘗て衆中に於いて都督の**韓哲**を召し、罪無く、之を斬る。大鑊(足の無い鼎)、長鋸、坐刀、碓之屬を作り、之を庭に陳ず。酔う毎に、輒ち手ずから殺人し、以て戯樂と為す。殺す所の者は多く支解せ令め、或は之を火に焚く、或は之を水に投げる。**楊愔**は乃ち鄴下の死囚を簡びて、之を仗内(殿庭の左右に仗を立てる)に置き、之を供御囚と謂う、帝は人を殺さんと欲すれば、輒ち執りて以て命に應ず。三月にして殺さざれば、則ち之を宥す。

**北齊** **〔裴謂之と王紘の極諫を許す〕** 開府參軍の**裴謂之**は上書して極諫し、帝は**楊愔**に謂って曰く、

「此の愚人は、何ぞ敢えて是くの如し！」

對えて曰く、

「彼は**陛下**が之を殺して、以て名を後世に成さんと欲する耳。」

帝は曰く、

「小人、我は且つ殺さず、**爾**は焉んぞ名を得ん！」

帝は左右と飲みて、曰く、

「樂しき哉！」

都督の**王紘**は曰く、

「大樂有り、亦た大苦有り。」

帝は曰く、

「何の謂いぞ也？」

對えて曰く、

「長夜之飲は、國亡び身隕ちるを寤<sup>さと</sup>らず、所謂大苦なり！」

帝は**紘**を縛し、之を斬らんと欲し、其の**世宗**を救う之功(高澄が死するや、王紘は刀を冒して賊を防ぐ、162 卷武帝太清三年にあり)有るを思い、乃ち之を捨てる。

**北齊** **〔西魏を討つの困難を趙道德は指摘〕** 帝は東山に游宴し、關、隴未だ平らがざるを以て、杯を投げて震え怒り、**魏收**を前に召して、立ちどころに詔書を為らしめ、遠近に宣示し、將に西行を事とせんとす。魏人は震え恐れ、常に隴を度る之計を為す。(胡三省曰く、宇文泰は虚実を識る、何ぞ西行の一詔に因りて便ち隴を度るの計を為すを得んや。此れ齊の史官の華言なるのみと。齊書によれば、魏人が震怒するは宇文泰の没後の事と為す) 然るに實は未だ行かず。一日、泣きて群臣に謂って曰く、

「**黑獺**(宇文泰の字) 我が命を受けず、奈何せん？」

都督の**劉桃枝**は曰く、

「臣は三千騎を得れば、請う長安に就き之を擒として以て來たらん。」

帝は之を壯とし、帛千匹を賜る。**趙道德**は進みて曰く、

「東西兩國は、強弱力は均し、彼は之を擒として以て來たる可くんば、此れ亦た之を擒として以て往く可からん。桃枝の妄言は應に誅すべし、陛下は奈何して濫賞するや！」

帝は曰く、

「道德の言は是なり。」

絹を回して之に賜う。帝は乗馬して峻岸を下り漳（漳水）に入らんと欲し、道德は轡を攬りて之を回す。帝は怒り、將に之を斬らんとす。道德は曰く、

「臣は死しても恨まず！當に地下に於いて先帝に啟せん。此の兒は酣酗顛狂にして、教訓す可からざるを論ずべし！」

帝は默然とし而して止む。它日、帝は道德に謂って曰く、

「我は飲酒して過てり、須く痛く我を杖つべし。」

道德は之を扶ち、帝は走る。(9-304p) 道德は之を逐いて曰く、

「何物の人ぞや、此の舉止を為す！」

**北齊** [齊主は上に昏く、楊愔の政は下に清し] 典御丞（五代志に曰く、後齊は官を制すること多く後魏の旧に循う。尚食・尚藥の二局に皆典御及び丞有り。尚食は御膳、尚藥は御藥、門下省に属す）の**李集**は面諫し、帝を桀、紂に比す。帝は縛して流中（流水の中）に置か令め、沉沒すること之久しくして、復た引き出さ令め、謂って曰く、

「吾は桀、紂に何如？」

集は曰く、

「向に來たり彌々及ばず矣！」

帝は又た之を沉め令め、引き出し、更に問い、此くの如く數四、集は對えること初めの如し。帝は大いに笑いて曰く、

「天下には此くの如き癡人有り、方に**龍逢**（夏の桀を諫めて死ぬ）、**比干**（殷の紂を諫めて死ぬ）も未だ是れ俊物ならざるを知る！」

遂に之を釋す。之頃して、又た引かれて入り見、諫める所有るに似たり、帝は將い出して要（腰）斬せ令む。其の或は斬り或は赦すは、焉を測る能う莫し。内外は慄慄（<sup>さんさん</sup>痛毒）として、各々怨毒を懷く。而るに素より能く默識強記し、加えるに嚴斷を以てし、群下は戰慄し、敢えて非を為さず。又た能く政を楊愔に委ね、愔は機衡を總攝し、百度修敕（敕は理まる）し、故に時人は皆な言う、

「主は上に昏く、政は下に清し」

と。愔は風表鑒裁、朝野の重んずる所と為る、少きとき屯陌を歴（<sup>へ</sup>爾朱氏は楊死を屠害し、唯楊愔のみ脱かるを得、潜竄すること累歳、後に高歡に歸す。また讒言に遇い逃れて海島に隠れる。高歡は訪ねて之を用いる）、志を得るに及び、一餐之恵み有る者も必ず重く之に報い、先ず嘗て己を殺さんと欲する者と雖も亦た問わず。選を典ること二十餘年、賢才を獎拔するを以て己が任と為す。性は復た強記にして、一見して皆な其の姓名を忘れず、選人の魯漫漢は自ら言う、

「猥賤（卑賤）にして獨り識られず」

と、愔は曰く、

「卿は前に**元子思**の坊（鄴中の坊の名、魏の侍中の元子思はここに居り、後に奔を謀りて誅せらる）に在り、短尾の牝驢に乗り、我を見るも下らず、方麴（便面、竹の方扇子）を以て面を障る、我は何為れぞ卿を識らざらん！」  
漫漢は驚き服す。

■秋，七月，甲戌（10-10+1=1日），前天門太守の**樊毅**は武陵を襲い，武州刺史の衡陽王の**護**を殺す。王琳は司馬潘忠をして之を撃たせしめ，毅を執り以て歸る。護は，暢（武帝の弟）之孫也。

■丙子（12-10+1=3日），陳霸先を以て中書監、司徒、揚州刺史と為し，爵を長城公に進め，餘は故の如し。

■**〔陳霸先は侯瑱を入れて司空とす〕**初め，余孝頃<sup>（漢の靈帝の中平中に新吳縣を立て、豫章郡に属す。江西省潯陽道奉新縣、現・宜春市奉新縣）</sup>は豫章太守為り，侯瑱<sup>（漢の靈帝の中平中に新吳縣を立て、豫章郡に属す。江西省潯陽道奉新縣、現・宜春市奉新縣）</sup>は豫章に鎮し，孝頃<sup>（漢の靈帝の中平中に新吳縣を立て、豫章郡に属す。江西省潯陽道奉新縣、現・宜春市奉新縣）</sup>は新吳縣（漢の靈帝の中平中に新吳縣を立て、豫章郡に属す。江西省潯陽道奉新縣、現・宜春市奉新縣）に於いて別に城柵を立て，瑱と相い拒む。瑱は其の從弟の**翦**をして豫章を守らせしめ，衆を悉くして孝頃を攻め，久しく克たず，長圍を築いて之を守る。癸酉（癸未なら19-10+1=10日），侯平は兵を發して翦を攻め，大いに豫章を掠め，之を焚き，建康に奔る。瑱の衆は潰え，湓城に奔り，其の將の**焦僧度**に依る。僧度は之に齊に奔るを勧め，會々**霸先**は記室の濟陽の**蔡景歷**をして南に（川を）上らせしめ，瑱に説きて降らせしめ，瑱は乃ち闕に詣りて罪に歸し，霸先は之が為に侯平を誅す。丁亥（23-10+1=14日），瑱を以て司空と為す。

■**〔熊曇朗は侯瑱敗走の馬仗を獲る〕**南昌（江西省豫章道南昌縣、現・南昌市南昌縣）の民の**熊曇朗**は，（9-305p）世々郡の著姓為り。曇朗は勇力有り，侯景之亂に，衆を聚めて豐城（江西省豫章道豐城縣、現・宜春市豐城市）に據り柵を為り，世祖（元帝蕭繹の廟号）は以て巴山太守と為す。江陵の陷るや，曇朗の兵力は浸く強く，鄰縣を侵掠す。侯瑱は豫章に在り，曇朗は外に服従を示し而るに陰に之を圖り，瑱の敗走するに及び，曇朗は其の馬仗を獲る。

**北齊** 己亥（35-10+1=26日），齊は大赦す。

●**〔宇文泰と王琳の交渉〕**魏の太師の**泰**は安州長史の**鉗耳康買**（西羌、自ら周王孝の後、虔仁氏と為るといふ、音が転訛して鉗耳となると）を遣わして王琳に使せしむ，琳は長史の**席豁**を遣わして之に報じ，且つ世祖及び愍懷太子之柩（江陵の陷るや、魏は既に元帝を殺し、遂に愍懷太子元良を殺す）を歸さんと請う。泰は之を許す。

■八月，己酉（45-39+1=7日），鄱陽王の**循**は江夏に卒し，弟の豐城侯の**泰**は郢州の事を監す。王琳は兗州刺史の**吳藏**（王琳が兗州刺史に任命）をして江夏を攻めせしめ，克たず而して死す。

●魏の太師の**泰**は北に河を渡る。

●**〔魏は王琳を以て大將軍、長沙郡公と為す。〕**（王琳は巧みに各勢力に対して外交）

●**〔陸騰は陵州叛獠討伐〕**魏の江州刺史の**陸騰**は陵州の叛獠を討ち，獠は山に因りて城を為り，之を攻めれども拔き難し。騰は乃ち伎樂を城下の一面に陳ね，獠は兵を棄て，妻子を攜え城に臨みて之を觀，騰は師を潛ませ三面より俱に上り，斬首は萬五千級，遂に之を平ぐ。騰は，俟（魏の太武帝に事える、文成帝の初めて立つに及び、子麗が宗愛を誅する功を以て王に封ぜらる）之玄孫也。

**北齊** **〔帝の酒乱に百官恐怖〕** 庚申（56-39+1=18日），齊主は將に西巡せんとし，百官は紫陌（天帝は紫微星にいとされ、天子の宮殿をそれになぞらえるところから、都の道路。都のちまた）に辭し，帝は槩騎（騎兵で槩を執る者）をして之を圍ませしめ，曰く、

「我が鞭を擧げれば，即ち之を殺せ。」

日晏れ，帝は酔いて起つ能わず。黃門郎の**是連子暢**は曰く、

「陛下は此くの如し，群臣は恐怖に勝えず。」

帝は曰く、

「大いに怖れる邪？若し然らば，殺す勿かれ。」

遂に晉陽に如く。

■九月（元嘉曆八月閏月），壬寅（9-9+1=1日），改元し，大赦す。**陳霸先**を以て丞相、錄尚書事、鎮衛大將軍、

揚州牧、義興公と為す。吏部尚書の王通を以て右僕射と為す。

**突厥**●**[突厥の吐谷渾攻め]**突厥の木桿可汗は道を涼州に假り以て吐谷渾を襲い、魏の太師の泰は涼州刺史の史寧をして騎を帥いて之に随わ使む、番禾（甘肅省甘涼道永昌県、現・金昌市永昌県の西）に至り、吐谷渾は之を覺り、南山に奔る。木桿は將に兵を分けて之を追わんとし、寧は曰く、

「樹敦（青海の南の曼頭山の北にあり、吐谷渾の旧都、周の穆王の時犬戎の樹惇は之に居る）、賀真の二城は、吐谷渾之巢穴也。其の本根を抜き、餘衆は自ら散ぜん。」

木桿は之に従う。木桿は北道より賀真に趣き、寧は南道より樹敦に趣く。吐谷渾可汗の誇呂（続は欠）は賀真に在り、其の征南王をして數千人を將いて樹敦を守ら使む。木桿は賀真を破り、誇呂（続は夸呂）の妻子を獲る。寧は樹敦を破り、征南王を虜とし、還り、木桿と青海（青海省の塩湖）に會し、木桿は寧の勇決を歎じ、贈遺は甚だ厚し。（9-306p）

■甲子（九月 60-38+1=23日）、王琳は舟師を以て江夏を襲う。冬、十月、壬申（8-8+1=1日）、豊城侯の泰は州を以て之に降る。

**北齊**齊は山東の寡婦二千六百人を發して以て軍に配し、夫有り而して濫に奪う者什に二三。

### 【宇文泰から宇文護へ、北周成立】

●**[宇文泰は没し、宇文護に委任]**魏の安定文公の宇文泰は還りて牽屯山（平涼郡高平県にあり、現・平涼市）に至り而して病み、驛して中山公の護を召す。護は涇州に至り、泰を見、泰は護に謂って曰く、

「吾が諸子は皆な幼く、外寇は方に強し、天下之事は、之を汝に屬す、宜しく努力して以て吾が志を成すべし。」

乙亥（11-8+1=4日）、雲陽（陝西省關中道涇陽県の北、現・咸陽市涇陽県）に卒す（歳50）。護は長安に還り、喪を發す。泰は能く英豪を駕御し、其の力用を得、性は質素を好み、虚飾を尙（<sup>たつと</sup>続は護）ばず、政事に明達し、儒を崇び古を好み、凡そ施設する所、皆な三代に依仿し而して之を為す。丙子（12-8+1=5日）、世子の覺は位を嗣ぎ、太師、柱國、大冢宰と為り、出でて同州（宇文泰が多くここに居る、齊に對抗上便利な地）に鎮す、時に年十五なり。

●**[於謹が再拜し、宇文護の執政が定まる]**中山公の護は、名位は素より卑しく、泰の屬する所と為ると雖も、而るに群公は各々執政するを圖り、肯えて服從する莫し。護は計を大司寇の於謹に問い、謹は曰く、

「謹は早く先公の非常之知を蒙り、恩は骨肉よりも深し、今日之事は、必ず死を以て之を爭わん。若し衆に對して策を定めれば、公は必ず讓るを得ざれ。」

明くる日、群公は會議し、謹は曰く、

「昔帝室は傾き危うく（魏の孝武帝が高歡を去り、關中に入りて宇文泰の保護を受ける事）、安定公（宇文泰）に非ざれば復た今日無し。今公は一旦世を違え、嗣子は幼なきと雖も、中山公は親しく其の兄の子、兼ねて顧托を受け、軍國之事は、理は須く之に歸すべし。」

辭色は抗厲（声を挙げて高亢に且つ色を正しくして嚴厲）なり、衆は皆な悚動（身がすくむ）す。護は曰く、

「此は乃ち家事なり、護は庸昧と雖も、何ぞ敢えて辭する有らん！」

謹は素より泰と等夷（同じ身分の仲間）にして、護は常に之を拜し、是に至りて、謹は起ち而して言つて曰く、

「公が若し軍國を統理すれば、謹等は皆な依る所有り。」

遂に再拜す。群公は於謹に迫られ、亦た再拜し、是に於いて衆議は始めて定まる。護は内外を綱紀し、文武を撫循し、人心は遂に安んず。

■十一月，辛丑（37-37+1=1 日），豊城侯の**秦**は齊に奔り，齊は以て永州（隋の時に零陵郡を以て永州と為す、この永州は不明）刺史と為す。

**北齊**■●**〔王琳は巧みに魏から妻子を取り戻す〕**（齊は）詔して王琳を征して司空と為し，琳は辭して至らず，其の將の**潘純陀**を留めて郢州を監ぜしめ，身は長沙に還る。魏人は其の妻子を歸す。

**北齊****〔齊は州郡県を省く〕**壬子（48-37+1=1 2 日），齊主は詔して以わく、

「魏の末に豪傑は郷部を糾合し，因縁請托し，各々州郡を立て，大を離し小を合わせ，公私は煩費し，丁口は疇日（昔日）より減じ，守令は昔時に倍し，且つ要荒（昔の要服荒服を引いて言を為す。要は好信を要結して之を従服し，荒は其の來服すること荒忽にして常無きを言う）は化に向かい，<sup>もと</sup>舊は浮偽多く，百室之邑（梁末に置く所の州郡の江淮の間に在る者を謂う）は，<sup>にわか</sup>遽に州名を立て，三戸之民は，空しく郡目を張り，名に循いて實を督（<sup>いず</sup>続は責）し，（9-307p）事歸は焉くに有らん。」

是に於いて三州、一百五十三郡、五百八十九縣、三鎮、二十六戍（<sup>続では欠如</sup>）を併せ省く。

■詔して江州四郡（臨川・安成・豫寧・巴山）を分けて高州を置く。明威將軍の**黃法ぐ**（毛扁の漢字）を以て刺史と為し，巴山（梁の大同二年に盧陵の興兵・臨川の新県二県を分けて西寧・巴山二県を立て、其の県を合わせて巴山郡を立てる。江西省豫章道崇仁県、現・撫州市崇仁県）に鎮す。

■十二月，壬申（8-7+1=2 日），曲江の侯勃を以て太保と為す。

●**〔岐陽に宇文覺を封じる〕**甲申（20-7+1=1 4 日），魏は安定文公を葬す。丁亥（23-7+1=1 7 日），岐陽（扶風の地。周は岐に興り国号とする。宇文泰は魏を支えるに周に倣いて制を立て、故に魏朝は之に封じる。將に禪代させんとす）之地を以て世子の**覺**に封じて周公と為す。

■**〔臨川の周迪は推されて主となる〕**初め，侯景之亂に，臨川（漢の豫章郡南城県の地。後漢に南城の北境を分けて臨汝県と為す。呉の孫亮太平二年に豫章東部・南城・臨汝の二郡を分けて臨川郡を置く。江西省豫章道臨川県、現・撫州市臨川区）の民の**周續**は兵を郡中に起こし，始興王の**毅**は郡を以て之に譲り而して去る。**續**の部將は皆な郡中の豪族なり，多く驕横にして，**續**は之を裁製し，諸將は皆な怨み，相い與に之を殺す。**續**の宗人の**迪**（<sup>てき</sup>続は迪）は，**勇**は軍中に冠たり，衆は推して主と為す。**迪**は素より寒微にして，郡人の服さざらんことを恐れ，同郡の**周敷**が族望の高顯なるを以て，節を折りて之に交わり，**敷**も亦た**迪**に事えて甚だ謹しむ。**迪**は上塘（下巻には工塘に作る。陳書周迪傳は工塘）に據り，**敷**は故郡に據り，朝廷は**迪**を以て衡州刺史と為し，臨川内史を領せしむ。時に民は侯景之亂に遭い，皆な農業を棄て，群聚して盜を為し，唯だ**迪**の所部は獨り農桑に務め，各々贏儲有り，政教（州郡の教令を下す）は嚴明にして，征斂すれば必ず至り，餘郡の乏絶する者は皆な仰ぎて以て給を取る。**迪**の性は質樸にして，威儀を事とせず，居常徒跣し，外に兵衛を列ね，内に女伎有りと雖も，繩を<sup>も</sup>按み（繩をなう）篋（竹の皮）を破り，傍若無人なり，言語に訥に而して襟懷（心の中）は信實なり，臨川の人は皆な之に附く。

**北齊****〔齊の長城三千里〕**齊は西河の總秦戍より長城を築き，東は海に至る，前後築く所は三千餘里，率ね十里に一戍あり，其の要害には州鎮を置き，凡そ二十五所。

●**〔西魏は北周に禪讓〕**魏の宇文護は周公の幼弱なるを以て，早く正位を正さしめ、以て人心を定めんと欲す。庚子（36-7+1=3 0 日），魏の恭帝の詔を以て位を周に禪り，大宗伯の**趙貴**をして節を持して冊を奉じしめ，濟北公の**迪**をして皇帝の璽綬を致さしむ。**恭帝**は出でて大司馬府に居る。（魏は15 世160 年にて滅ぶ）

令和5年5月17日 翻訳開始 10930 文字

令和5年5月26日 翻訳終了 23454 文字